

四半期報告書

(第72期第2四半期)

自 平成24年7月1日

至 平成24年9月30日

石井食品株式会社

(E00453)

第72期第2四半期（自平成24年7月1日 至平成24年9月30日）

四 半 期 報 告 書

- 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

石井食品株式会社

目 次

	頁
第72期第2四半期報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	8
第4 【経理の状況】	9
1 【四半期連結財務諸表】	10
2 【その他】	17
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	18
四半期レビュー報告書	
確認書	

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月12日

【四半期会計期間】 第72期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 石井食品株式会社

【英訳名】 Ishii Food Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 長 島 雅

【本店の所在の場所】 千葉県船橋市本町2丁目7番17号

【電話番号】 047(435)0141

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部総括マネージャー 石 井 隆

【最寄りの連絡場所】 千葉県八千代市吉橋1835

【電話番号】 047(459)7541

【事務連絡者氏名】 執行役員管理本部総括マネージャー 石 井 隆

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第71期 第2四半期 連結累計期間		第72期 第2四半期 連結累計期間		第71期	
	自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(千円)	4,905,017		4,766,874		10,554,650
経常損失	(千円)	273,744		215,052		399,828
四半期(当期)純損失	(千円)	294,236		235,045		684,221
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	△273,731		△268,436		△652,396
純資産額	(千円)	5,907,408		5,205,082		5,528,641
総資産額	(千円)	9,826,314		9,487,582		9,980,761
1株当たり四半期(当期) 純損失金額	(円)	16.03		12.80		37.27
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	—		—		—
自己資本比率	(%)	60.1		54.9		55.4
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△131,992		△253,569		267,672
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△985,175		△46,587		△1,124,163
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△91,291		△93,683		△130,748
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,618,060		1,445,438		1,839,280

回次 会計期間	第71期 第2四半期 連結会計期間		第72期 第2四半期 連結会計期間	
	自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年7月1日 平成24年9月30日
1株当たり四半期純損失金額	(円)	13.62		12.07

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間の経済環境は、高齢者の増加、1人2人世帯での食事の増加、食物アレルギーや生活習慣病で食事を制限しなければならない人の増加等により食に対する価値観が大きく変化してきております。また、東日本大震災以降、今後発生する可能性がある震災に対する防災対策の必要性や電力不足による対策等様々な影響が起きています。

そのような状況の中、「健康に気遣いたいが良い食事ができない」、食物アレルギーを持つ子供の母親から「安心して食べさせられる商品が少ない」、震災の時には「火と水が無くまともな食事ができなかった」「食物アレルギーを持つ子供は食べられる物がなく本当に困った」、「自然で美味しく食べられる商品が欲しいがなかなか探しても少なく困っている」などのお客様からの声が多く寄せられています。当期はそのようなことへの対応を課題とし、商品開発とサービスにより解決するための活動を行っております。

7月には京丹波工場で食物アレルギー配慮の専用工場が完成いたしました。この工場は「生産ライン」「人」「水」「空気」が持ち込むアレルゲンを徹底的に排除する設備を整えております。現在は、この工場で作成した商品を食物アレルギーの子供を持つ親の会等にサンプルを配布し、商品に対するご意見やご要望をお伺いしながらテスト販売を8月より開始しております。

非常食については、震災時に本当に困った方からのご意見を伺い、「火と水が無い状況でも美味しく食べられる商品が欲しい」、また卵・乳の食物アレルギーの子供を持つ母親から「安心して食べさせられる商品を開発して欲しい」とのご要望を頂き、8月より販売を開始し好評を得ております。

塩分とカロリーを気遣う方への惣菜（里芋、きんぴらごぼう、サラダ等）、調理ソース（ドレッシング等）、玄米を中心にした食事の提案と販売を7月より選定したスーパーマーケットで行うと共に、ダイレクト販売も開始しております。自然で美味しい食事をしたいとのご要望に応えるため、イシイのブランドは無添加調理（当社での製造過程においては食品添加物を使用しておりません）で製造しております。7月から発売しております炊き込みご飯シリーズでは、特に「栗ごはん」は栗の持つ自然な色合いと風味が良く「美味しい」と好評を頂き、まぜご飯シリーズと合わせ売上が前年同期比102%と実績を伸ばしました。この実績から、当社の取り組みが少しずつお客さまに浸透してきていると考えております。

流通チャネル別の状況は、スーパーマーケットでは大人のお弁当提案や食事の提案を行いました。プライベートブランドの品揃え強化と価格競争の影響を受け、主力のハンバーグ・ミートボール・とりそばろは売上が減少いたしました。

生協、宅配、ダイレクト販売においては、食事でお困りの生活者への確かな情報提供と食事の提案を積極的に行ったことにより、売上が前年同期比134%と実績を伸ばしました。

このような活動を行ってまいりましたが、当社を取り巻く事業環境は依然厳しい環境が続いており、価格競争と低価格志向の影響により、当社グループの当第2四半期連結累計期間の売上高は47億66百万円（前年同期比1億38百万円減）となりました。一方、販売費及び一般管理費は予算管理の厳格化により前年同期比で88百万円削減したものの、営業損失は2億23百万円（前年同期は2億78百万円の営業損失）となりました。経常損失は2億15百万円（前年同期は2億73百万円の経常損失）となり、また、固定資産処分損及び法人税等を計上した結果、四半期純損失は2億35百万円（前年同期は2億94百万円の純損失）となりました。

製品別チャネル別業績の概況は、次の通りであります。

（単位：千円）

製品別売上高	前第2四半期連結累計期間 (23.4.1～23.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (24.4.1～24.9.30)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	4,473,221	91.2	4,298,472	90.2	△174,749	96.1
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	188,375	3.8	192,883	4.0	4,507	102.4
惣菜(サラダ・煮物他)	183,016	3.7	179,148	3.8	△3,868	97.9
調理用ソース	21,999	0.5	16,470	0.3	△5,528	74.9
冷凍食品	3,597	0.1	22,682	0.5	19,084	630.6
配慮食	3,163	0.1	13,741	0.3	10,578	434.4
その他	31,643	0.6	43,474	0.9	11,831	137.4
合計	4,905,017	100.0	4,766,874	100.0	△138,143	97.2

（単位：千円）

(チャネル別内訳)	前第2四半期連結累計期間 (23.4.1～23.9.30)		当第2四半期連結累計期間 (24.4.1～24.9.30)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
スーパーマーケット・小売店他		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	4,259,267	92.5	4,065,176	93.2	△194,091	95.4
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	178,236	3.9	157,885	3.6	△20,350	88.6
惣菜(サラダ・煮物他)	118,124	2.6	69,215	1.6	△48,908	58.6
調理用ソース	18,157	0.4	12,557	0.3	△5,599	69.2
冷凍食品	2,050	0.0	16,039	0.4	13,989	782.2
配慮食	-	-	2,179	0.0	2,179	-
その他	27,368	0.6	37,655	0.9	10,287	137.6
合計	4,603,204	100.0	4,360,711	100.0	△242,493	94.7

宅配・生協他						
	金額	構成比	金額	構成比	金額	趨勢比
		%		%		%
食肉加工品(ハンバーグ・ミートボール他)	213,954	70.9	233,296	57.4	19,341	109.0
炊き込みご飯の素・まぜご飯の素	10,139	3.4	34,997	8.6	24,858	345.2
惣菜(サラダ・煮物他)	64,892	21.5	109,932	27.1	45,040	169.4
調理用ソース	3,841	1.3	3,912	1.0	71	101.9
冷凍食品	1,546	0.5	6,642	1.6	5,095	429.5
配慮食	3,163	1.0	11,562	2.9	8,398	365.5
その他	4,274	1.4	5,818	1.4	1,544	136.1
合計	301,812	100.0	406,162	100.0	104,350	134.6

① 食肉加工品（ハンバーグ・ミートボール他）

スーパーマーケットチャンネルでは、プライベートブランドの品揃え強化と価格競争の影響を受け売上は減少しましたが、生協チャンネルでは「ミートボール」をリニューアルし、お弁当の提案を積極的行った結果、売上は好調に推移いたしました。

② 炊き込みご飯の素・まぜご飯の素

「栗ごはん」「松茸ごはん」の自然な色合いと風味が高く評価された他、2人世帯が増加する中、少人数向けの「まぜご飯の素」が美味しく食べられるとの好評を得て、売上は好調に推移いたしました。また、新製品「パエリアの素」を限定店舗で販売し、ハレの日向けの食事の提案として好評を得ました。

③ 惣菜（サラダ・煮物他）

サラダ類は、スーパーマーケットチャンネルにおいて価格競争の影響を受け売上が減少しましたが、宅配・生協チャンネルにおいては地産地消として、千葉県産の食材を使った「おさつの白いスイーツサラダ」「おさつの黄色スイーツサラダ」が高く評価されました。また、「ごぼうサラダ」も世帯人数の減少に合わせて量目を減らしリニューアルをした結果、売上が好調に推移いたしました。

④ 調理用ソース

ファミリータイプの調理用ソースは、1人2人世帯が増加したことにより売上が減少いたしました。

⑤ 冷凍食品

スーパーマーケットチャンネルでは、業務用としての「中華丼」が麺の具材として採用され、売上が増加いたしました。宅配・生協チャンネルにおいては「黒酢の酢豚」が好評を得て、売上が増加いたしました。

⑥ 配慮食

宅配・生協チャンネルでは、塩分・カロリーを配慮したシリーズ「チキンカレー」「リゾット」「ナスと挽肉のキーマカレー」「ホタテのクリームシチュー」「クリームシチュー」が高齢者、妊婦、乳幼児を持つ母親から好評を得て、売上が増加いたしました。

⑦ その他

「非常食」については、スーパーチャンネル、宅配・生協チャンネル、ホームセンター等で防災の日に合わせて火も水も使わず美味しく食べられることを訴求した結果、好評を得て売上が増加いたしました。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は94億87百万円（前連結会計年度末比4億93百万円減）となりました。主な要因は、現金及び預金の減少7億93百万円及び有形固定資産の増加2億93百万円です。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は42億82百万円（前連結会計年度末比1億69百万円減）となりました。主な要因は、未払金の支払等によるその他流動負債の減少1億46百万円です。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は52億5百万円（前連結会計年度末比3億23百万円減）となりました。主な要因は、四半期純損失の計上2億35百万円及び配当金の支払55百万円です。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は14億45百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億93百万円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により使用した資金は2億53百万円（前年同期は1億31百万円の使用）となりました。主な要因は、売上債権の増加及び工場再構築費用に係る支出です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は46百万円（前年同期は9億85百万円の使用）となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出及び定期預金の払戻による収入です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は93百万円（前年同期は91百万円の使用）となりました。主な要因は、配当金の支払及び長期借入金の返済です。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は22百万円です。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	65,000,000
計	65,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,392,000	18,392,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は、1,000株であります。
計	18,392,000	18,392,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日	—	18,392,000	—	919,600	—	672,801

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
石井 トヨ子	千葉県船橋市	2,426	13.19
石井 健太郎	千葉県船橋市	910	4.95
(株)千葉銀行	千葉県千葉市中央区千葉港1番2号	900	4.89
(有)ケイアンドアイ	千葉県船橋市本町二丁目7番17号	873	4.75
(株)榎本武平商店	東京都江東区新大橋二丁目5番2号	653	3.55
(株)オイシー	千葉県船橋市本町二丁目7番17号	633	3.44
第一生命保険(株)	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	452	2.46
石井 達雄	千葉県船橋市	423	2.30
日本興亜損害保険(株)	東京都千代田区霞が関三丁目7番3号	350	1.90
カネハツ食品(株)	愛知県名古屋市中区豊三丁目19番24号	310	1.69
計	—	7,931	43.12

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 34,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,261,000	18,261	—
単元未満株式	普通株式 97,000	—	—
発行済株式総数	18,392,000	—	—
総株主の議決権	—	18,261	—

(注) 単元未満株式数には当社所有の自己株式176株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 石井食品株式会社	千葉県船橋市本町 二丁目7番17号	34,000	—	34,000	0.18
計	—	34,000	—	34,000	0.18

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、千葉第一監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,499,280	2,705,438
売掛金	1,381,626	1,534,496
商品及び製品	80,550	45,984
仕掛品	2,745	6,097
原材料及び貯蔵品	172,614	204,012
その他	119,057	115,499
貸倒引当金	△1,475	△1,635
流動資産合計	5,254,399	4,609,892
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,617,144	1,921,764
機械装置及び運搬具（純額）	801,418	799,368
工具、器具及び備品（純額）	65,510	64,440
土地	906,296	906,296
リース資産（純額）	28,423	24,228
建設仮勘定	9,486	5,418
有形固定資産合計	3,428,279	3,721,516
無形固定資産	121,806	110,604
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,226,360	1,095,652
貸倒引当金	△50,084	△50,084
投資その他の資産合計	1,176,276	1,045,568
固定資産合計	4,726,361	4,877,689
資産合計	9,980,761	9,487,582
負債の部		
流動負債		
買掛金	503,723	532,282
短期借入金	1,630,000	1,630,000
1年内返済予定の長期借入金	67,560	67,560
未払費用	759,039	743,364
未払法人税等	15,099	15,002
賞与引当金	75,561	74,605
その他	317,861	171,790
流動負債合計	3,368,844	3,234,604

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
固定負債		
社債	500,000	500,000
長期借入金	61,210	27,430
退職給付引当金	333,510	336,758
資産除去債務	25,916	25,927
長期未払金	139,894	139,894
その他	22,743	17,884
固定負債合計	1,083,275	1,047,895
負債合計	4,452,119	4,282,499
純資産の部		
株主資本		
資本金	919,600	919,600
資本剰余金	672,801	672,801
利益剰余金	3,970,509	3,680,390
自己株式	△8,341	△8,389
株主資本合計	5,554,569	5,264,401
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△26,517	△58,302
繰延ヘッジ損益	589	△1,017
その他の包括利益累計額合計	△25,927	△59,319
純資産合計	5,528,641	5,205,082
負債純資産合計	9,980,761	9,487,582

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	4,905,017	4,766,874
売上原価	3,235,781	3,131,180
売上総利益	1,669,236	1,635,693
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	331,933	305,877
支払手数料	134,118	146,535
運搬費	574,400	557,876
販売促進費	166,524	176,085
その他	740,715	673,311
販売費及び一般管理費合計	1,947,691	1,859,686
営業損失(△)	△278,454	△223,993
営業外収益		
受取利息	3,238	2,930
受取配当金	6,127	5,818
受取保険料	—	8,929
廃油売却益	5,986	6,668
その他	11,303	7,516
営業外収益合計	26,656	31,863
営業外費用		
支払利息	13,990	13,569
たな卸資産廃棄損	5,950	9,304
その他	2,004	49
営業外費用合計	21,945	22,923
経常損失(△)	△273,744	△215,052
特別損失		
固定資産処分損	8,985	9,846
特別損失合計	8,985	9,846
税金等調整前四半期純損失(△)	△282,729	△224,899
法人税等	11,507	10,145
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△294,236	△235,045
四半期純損失(△)	△294,236	△235,045

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△294,236	△235,045
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22,283	△31,784
繰延ヘッジ損益	△1,778	△1,607
その他の包括利益合計	20,504	△33,391
四半期包括利益	△273,731	△268,436
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△273,731	△268,436
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△282,729	△224,899
減価償却費	246,118	229,512
賞与引当金の増減額(△は減少)	3,122	△955
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△10,626	3,248
長期未払金の増減額(△は減少)	△12,110	—
受取利息及び受取配当金	△9,366	△8,749
支払利息	13,990	13,569
固定資産処分損益(△は益)	8,985	9,846
売上債権の増減額(△は増加)	△146,296	△152,869
たな卸資産の増減額(△は増加)	16,307	△182
仕入債務の増減額(△は減少)	10,109	28,558
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	61	273
未払消費税等の増減額(△は減少)	13,165	2,249
その他	△12,481	△3,440
小計	△161,750	△103,837
利息及び配当金の受取額	9,372	8,233
利息の支払額	△13,501	△13,581
工場再構築費用の支出額	—	△135,801
法人税等の還付額	47,260	1,933
法人税等の支払額	△13,373	△10,516
営業活動によるキャッシュ・フロー	△131,992	△253,569
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△1,660,000	△1,260,000
定期預金の払戻による収入	863,000	1,760,000
有形固定資産の取得による支出	△165,987	△545,384
投資有価証券の取得による支出	△1,213	△1,236
その他	△20,973	32
投資活動によるキャッシュ・フロー	△985,175	△46,587
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	360,000	360,000
短期借入金の返済による支出	△360,000	△360,000
長期借入金の返済による支出	△33,780	△33,780
リース債務の返済による支出	△2,259	△4,781
自己株式の取得による支出	△173	△48
配当金の支払額	△55,078	△55,074
財務活動によるキャッシュ・フロー	△91,291	△93,683
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,208,459	△393,841
現金及び現金同等物の期首残高	2,826,519	1,839,280
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,618,060	※ 1,445,438

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	
当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。	
これにより、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ3,901千円減少しております。	

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	3,278,060千円	2,705,438千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△1,660,000	△1,260,000
現金及び現金同等物	1,618,060	1,445,438

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	55,078	3.00	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	55,074	3.00	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

当社グループは、食品事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

すべてのデリバティブ取引にヘッジ会計を適用しているため、該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額	16円03銭	12円80銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	294,236	235,045
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	294,236	235,045
普通株式の期中平均株式数(株)	18,358,956	18,357,896

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月9日

石井食品株式会社
取締役会 御中

千葉第一監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 手 島 英 男 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 田 中 昌 夫 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている石井食品株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年7月1日から平成24年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、石井食品株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月12日

【会社名】 石井食品株式会社

【英訳名】 Ishii Food. Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 長 島 雅

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません

【本店の所在の場所】 千葉県船橋市本町2丁目7番17号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長執行役員長島雅は、当社の第72期第2四半期（自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。